



楓の誉

R7.2.26(第11号)

文責：高田 幸伸

「どちらを重視していますか？」
職業講話の感想より

一月三十日(木)、二年生では職業講話を実施しました。

今回は、九つの企業や職種の方に講話をしていただきました。また、生徒たちの主体性やリーダー性を育むために会の運営を生徒たち自身が行いました。

その会の後、共同通信社の記者の方の講話を聞いた生徒が「記者の方は、発言者が言ったことを記事にするときに発言者の言ったことと視聴者への分かりやすさ、どちらの方を重視していますか？教えてくださるとうれしいです。」と感想シートに記入していたところ、返事をいただきました。

返事には「略々」とても良い視点だと思えます。実は発信者の言ったことは、それをそのまま書いても意味が分からないことがあります。(日本語は特に)新聞を読んでみると分かるかもしれません、発信者の言葉が記事に使われている場合、普段の会



共同通信社の方の講話→

話の長さ比べると非常に短いことが多いです。そこだけを切り取って読むとよく分からないことがあると思いますが、記者も同じで、より多くの人に自分の取材した記事、ニュースを読んで、見て、知ってもらいたいという欲求があります。そこで自制心が必要です。事実に向き合う必要があります。伝えたいことと読者が知りたいことのちよど良い着地点を見つけるのも記者の仕事です。質問の答えを見つければいいです。追記で質問があれば、いつでも聞いてください。略々書いてありました。

このような生徒の姿勢は、現在求められている自ら問いを発し、主体的に学び解決しようとする学習者の姿であると強く感じました。このようなやり取りを通して、自らの答えにたどり着く経験を重ねていくことが重要です。自らの問いを大切にしていきましょう。

「生きる意味を学ぶ」 広島盈進中学校・高等学校との交流

二月四日(火)、広島県の盈進中学校・高等学校のヒューマンライツ部と本校の二年生、小学六年生がオンラインで交流をしました。

盈進中学校・高等学校のヒューマンライツ部は、「手と手から」をテーマに「中高生として地域や国際社会の平和と人権の環を広げるために貢献する」をサブテーマに掲げ、ハンセン病問題から学ぶ学習、「核廃絶！ヒロシマ・中高校生による署名キャンペーン」、東日本大震災被災地・被災者支援交流活動地域ボランティアなど精力的に活動されています。また、二十年以上前から長島愛生園の入所者との交流が続けられており、お互いの取組の交流を通して、本校のこれからの取組について生かしていくことを目的にしています。

お互いの取組を交流し、充実した時間となりました。また、人々との交流を通して、その生き方に触れる中で、「今後人として自分はどうな生き方をしていくのか。」と向き合っているヒューマンライツ部の生徒の姿が印象的でした。交流会のまとめで盈進中学校・高等学校の延校長先生が「菊池恵楓園は、すぐ近くにある。もつとできることがあるし、今しかできないことがあるのではないかと話されました。今後も交流を続け、自分たちに何ができるのかを考え、行動していきます。」



↑ オンラインでの交流の様子

熊本県学力・学習状況調査結果

昨年十二月、一・二年生を対象に実施された熊本県学力・学習状況調査の結果が一月末に公表されました。実施された国語、数学、英語の三教科について、教科によって「基礎」や「活用」の項目で県平均を下回る教科はあるものの、各学年総合では県平均を上まわっています。

今後は、個人や教科等で分析をして、対策を図りながら学力の向上に努めて参ります。

ご家庭でも、配付されております。個票をもとにお子様と家庭学習等の取組や目標設定などを共有するきっかけにいただければ幸いです。

※本校の学校生活の様子や様々な情報は、本校HPに随時、掲載しています。



学校HPのQRコード